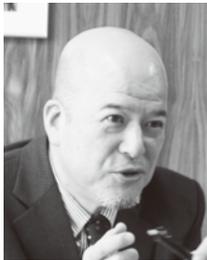


# 「良き市民」としての 大人を目指して

## キャリア教育を包括した 「広義のシチズンシップ教育」で、 教育全体をとらえ直す

すべての県立高校で政治参加教育として「模擬投票」が実施されるなど、シチズンシップ教育を進めている神奈川県。湘南台高校では、平成22年度より3年間、県立高校教育力向上推進事業におけるシチズンシップ教育の研究指定を受け、シチズンシップ教育に取り組んだ結果が評価され、キャリア教育に関する平成24年度の文部科学大臣表彰を受けた。25年度からは同事業バージョンIIでシチズンシップ教育研究推進校の指定を受け、さらに充実、発展させようとしている。

### 神奈川県立湘南台高等学校



副校長

鈴木寿昌氏



教諭

(学習支援グループ シチズンシップ教育担当)

黒崎洋介氏

神奈川県では、政治参加教育、司法参加教育、消費者教育、道徳教育の実践を通じて、これからの社会を担う自立した社会人を育成するために、積極的に社会参加するための能力と態度を育成する実践的な教育としての「シチズンシップ教育」を推進している。平成23年度から全県立高校でキャリア教育の一環として実施されているが、湘南台高校では、「広義のシチズンシップ教育」を掲げ、キャリア教育のみならず教育活動すべてが将来の主権者、良き市民づくりに資するものであるととらえて、ユニークな実践を行っている。

黒崎 平成22年度から受けた研究指定のバージョンIでは、模擬投票、模擬議会、模擬裁判といったシチズンシップ教育の基礎となるプログラムを進めてきました。昨年度からのバージョンIIにあたっては、本校校長の川口の示唆のもと、「広義のシチズンシップ教育」に取り組んでいます。学校の教育活動すべてが将来の主権者、良き市民づくりにつながっていくという観点で、シチズンシップ教育を学校教育の理念、方向性としてとらえていくものです。シチズンシップ教育とキャリア教育は言葉こそ違いますが、[21世紀社会に大人になっていく構えをつくる]という目指すところは同じだと思います。

鈴木 神奈川県教育委員会が、政治参加教育、司法参加教育、消費者教育、道徳教育というシチズンシップ教育の4本柱を掲げたわけですが、本校はもとも行われていたキャリア教育をシチズンシップという視点でとらえ直してみようと、4本柱のみならず、日々の授業や学校行事を含めて、大人になって社会の担い手として主権者、良き市民になるためにどうするのか。いわばキャリア教育とシチズンシップ教育の流れをうまくバイラルさせていこうとしているわけです。

キャリア教育を狭くとらえて「進路



#### 神奈川県立湘南台高等学校

全日制普通科  
所在地●神奈川県藤沢市円行1986番地  
創立●昭和60(1985)年  
校長●川口英一  
教育目標●自律、創造、敬愛、協調、健康  
平成25年度の卒業生数は276名。主な進路は、大学154名、短大22名、専門学校等74名、就職(公務員含む)5名 等



●模擬投票

藤沢市選挙管理委員会から投票箱、記載台の実物を借り受け、参議院議員選挙の実際の候補者を対象に投票を行う。事前に選挙制度の学習、各政党のマニフェストの比較検討等をしたうえで、生徒の任意により自由投票する。選挙は現実にも主権者の自由意思による投票であることを踏まえ、その意味を考えさせ、主体性を育むねらいがある。平成25年度には生徒有志によるプロジェクトチームが、投票所の設置、開票作業等、運営全般を担った。



●模擬議会

生徒が議員として与党・野党に分かれ、委員会、本会議で審議を行い、採決する。議案は身の回りのことからローカル～ナショナル～グローバルといった範囲の異なる、公共的・時事的で葛藤性のある課題が設定される。これまでの議案は、「消費税10%への引き上げ」「太陽光発電の推進」「ゴミ袋有料化の推進」「18歳選挙権の実現」「敬老パス利用者負担額の増加」「がれきの受け入れ」「中高一貫教育」「TPP参加」など。



●模擬裁判

事前学習で司法制度や証拠の見方を学び、それらを活用して証拠に基づいた評議・評決を行う。横浜弁護士会、横浜家庭裁判所等の協力のもと、裁判官、被告人、弁護士、裁判員、被告人の家族等を生徒に配役し、シナリオに沿った模擬裁判が行われる。これまで、実際に起きた転落死事件を基に、駅のホームで酔った男性を押し加害女性の行為が正当防衛に当たるか否かを争点とした事例などを取り上げた。桐蔭横浜大学法学部とシナリオ作成で連携、大学所有の横浜地方裁判所陪審法廷（移築復元）にて模擬裁判を実施。

保証さえすればいい」みたいな古い考え方があり、一方で「働くことの意義は何だろう」というキャリア教育があり、われわれはもう一歩進んで、「大人になるキャリア教育って何だろう」というとらえ方をしていると考えていただくといいかもしれません。

これからの社会では、課題解決のために市民一人ひとりの積極的な社会参加が必要であり、義務と責任を果たし主権者としての権利を行使することで21世紀社会の担い手となる——こうしたシチズンシップ教育の目的は、「社会の引き受け手」を育てるといった視点に立っている。

「社会的課題を知り、解決策を考え、解決に向け行動できる」多様な価値観をもつ他者と協働しながら課題解決に取り組む」市民というイメージである。それには、例えば課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力の育成が求められる。湘南台高校では、そのための方法として「習得し活用し探究」の学習プロセスや言語活動を重視した協働学習を実践している。

学校全体で各授業がキャリア教育、シチズンシップ教育の考えの下に行われているという前提であるが、中心として行っているのが総合的な学習の時間。模擬投票、模擬裁判では現代社

会や政治経済の授業で知識を身につけたうえで、それを応用するという形になっている。総合的な学習の時間に、KJ法や話し合いの仕方、発表の仕方など土台となることを学習し、各授業の中でそうした力が伸びていくということもある。

総合的な学習の時間は、教科横断的で総合的な課題を解決する力を養うために、自分でテーマを設定し、情報を収集・整理・分析し、表現していく時間として位置づけられ、主体的・探究的な学習をすることとされているが、湘南台高校ではその時間を校内的に「シチズンシップ」と呼び、1年生では「シチズンシップⅠ」、2年生は「シ

チズンシップⅡ」、3年生は「シチズンシップⅢ」の授業を行うこととしている。

黒崎 シチズンシップⅠでは、まず挨拶、話の聞き方・話し方から始まって、続いてマインドマップ、KJ法、図解思考、論理的思考など、「考え方」に重点を置いて学習していきます。その中でも特に重視しているのは、ロジカルシンキング、論理的思考で、意見を述べた後で必ず根拠を伴う、という考え方です。「私はこう思う。なぜならば…」というやり方をトレーニングしていく。終盤は、「湘南台ハイスクール議会」という模擬議会の中でロジカ

ルシンキングの型を使っていくんですね。例えば「私はTPPに賛成である。なぜならば農業が……」といった形で。「湘南台生の主張」というのは、小論文のような文章のプログラムなんですけれども、ロジカルシンキングの型に沿って書いていきます。

これらはシチズンシップということになっていきますけれども、キャリア教育で言えば、基礎的・汎用的能力や21世紀型の学力と呼ばれるものの育成につながっていると思います。1年間終わってみると、生徒に身につけてきたなど実感しますね。

鈴木 湘南台ハイスクール議会では、与党、野党に分かれてグループで話し合いをし、最後に起立をさせて議決を採るんですけれども、党議拘束をかけていないので、反対派だったのが賛成に回ったりすることもあるんです。その決断をして立つ瞬間の彼らの緊張感はかなりのもんです。15、16歳の子



ちが自分で話を聞き、考えて決断して議決をするという瞬間をもつことの意味は大きいと思います。実に真剣な顔をして立ち上がる。例えばスマートフォン云々の議案などより、TPPとか廃棄物処理の問題など大きなものになればなるほど真剣さ、緊張感は大きい。50分の授業の中の一瞬ですけれども、それだけでもこの授業は大変有意義ですね。

黒崎 扱った議案はいずれも実社会の課題です。今の学校は実社会の課題をもち込むのを避ける傾向がありますけれども、もちろん政治的な中立性などに配慮しながら、本校はそういったものに触れさせることに挑戦していきたい。それが生徒を大人にさせていると思います。社会と切り離すのではなくて、学校の中でいかに社会に触れさせるかということですね。

1年生では公共的な課題に対する「価値判断」の学習、2年生は「意思



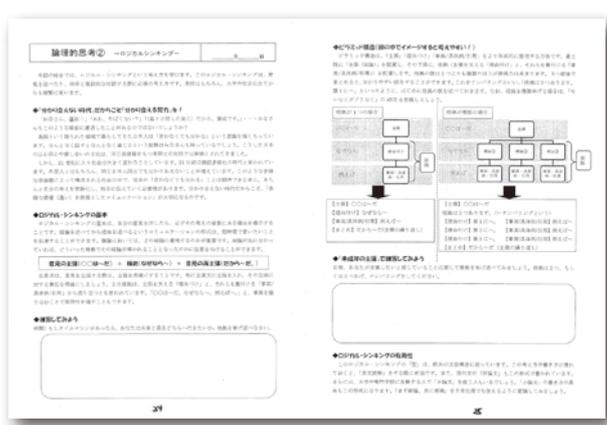
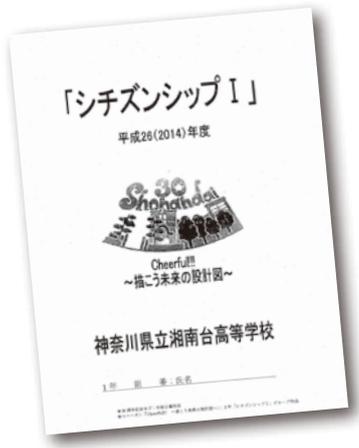
決定」の学習と位置づける。高校生のうちに身近なところから価値判断、意思決定をする学習を積み重ねて、大人の社会に送り出していくのがねらいだ。シチズンシップでは、ワークシートで構成されたテキストを使い、まず自分で考え、グループで共有して全体に発表する。生徒たちも、こうした取り組みが自分自身のためになっていると感じている様子だ。

黒崎 本校の生徒は学校外でも活躍している人もいますが、「これ、シチズンでやったことと同じだね」ということがあると言いますし、何か発表するときでも、まず主張してからその根拠を示すことが自然にできる。シチズンシップが基礎的・汎用的能力を習得させていることになっているのではないのでしょうか。

鈴木 授業を見学していても、シチズンシップ教育が普段の授業に生きていると感じることが随所にあります。本

**●シチズンシップI プログラム**  
(平成26年度/1年生の総合的な学習の時間)

- ・計画評価セッション
- ・上手にあいさつをしよう
- ・聞き方・話し方
- ・カルタ (マインドマップ)
- ・カルタを使った自己紹介 (準備～発表)
- ・KJ法
- ・図解思考
- ・論理的思考
- ・湘南台ハイスクール議会
- ・新聞の読み方講座
- ・湘南台生の主張



平成26年度「シチズンシップI」テキスト

校の生徒は、グループワークなどは非常に得意です。社会人になれば必ずチームで働かないといけないわけですから、その部分が培われていると思いますね。

**黒崎** 普段の親しいもの同士だけの「親密圏」での会話に対して、グループワークを行うことで「公共圏」での話し合いのためのトレーニングになっているのではないのでしょうか。個人的な話ですが、私自身の授業のテーマは私語をいかに公語にするかということなんです。

**鈴木** 普段から仲のいい子同士だけではなくて、与えられた条件の中でしゃべってごらんと言うと本当によくしゃべり、自分のパフォーマンスを発揮している。この子たちはよく鍛えられているな、と実感しましたね。

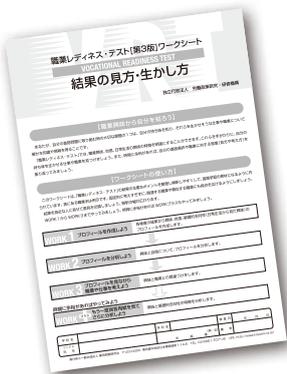
私個人の意見を言いますと、学校ってクラスに40人くらい生徒がいますが、その40人がいるからできることをすべき場なんです。例えば、受験勉強は一人でもできる。40人いるからこその授業ではないのではないかと。シチズンシップはまさにそういう部分を担っているのではないかと思うんです。

ほかにインターンシップやボランティア活動、大学訪問、職業レディネス・テストによるキャリア・デザインなどの取り組みも行われている。

**黒崎** インターンシップも盛んですね。近隣の高校に比べても本校は多くて、毎年30名以上の生徒が湘南・鎌倉地区のインターンシップに参加しています。全学年対象で夏休みに行います。

職業レディネス・テストは、目的意識、問題意識のないまま大学に進学していくのが一番こわいと思っていたので、問題意識がもてない、自分が何に興味があるのかわからないという生徒に、自分を知る一つのきっかけになるのでは、と導入しました。

1年生のシチズンシップでは価値判断、2年生では意思決定を重視していて、例えば原発に反対するんだから、じゃあどうするのかと考えるながら自分の意思を決定する。価値判断してその後に意思決定していく。それは将来的なビジョンを描いていくうえでもすごく大切です。かなり進路とリンクすると考えていまして、意思決定の思考方法を勉強した後、1学期の後半にレディネス・テストを使って自分の将来についてどのように意思決定しているのかを考えるプログラムとして組み込んでいます。



職業レディネス・テスト結果の見方・生かし方 (ワークシート)

興味ある職業分野を選んで、その分野に行くためには大学だったらどういう学部に行く必要があるかを調べる作業を行いました。大学選びは、自分が学びたいことがあって、そのために進学するというのが一番いいんですが、そうでない生徒も多い。社会科学、人文科学、自然科学という大きな枠組みの概念も曖昧ですからね。

ちょうど2年生の夏休みに文系か理系かを決める大きな選択があります。その前に実施します。今後は、担任との面談の際の材料にすることも考えられると思います。来年度はインターンシップの事前学習としても実施する予定です。

——今後の展望についてお願いします。

**黒崎** キャリア教育とシチズンシップ教育を統合的に進めていく、そのことの大切さをこれからも本校から発信していきたい。キャリア教育は職業、進路に重点が置かれ、シチズンシップ教育は社会科教育の延長線上としてとらえられることもある。どちらかということではなくて、本校の場合は、キャリア教育としてインターンシップ、職業レディネス・テストなど、シチズンシップ教育として模擬議会、模擬裁判、模擬投票などを通して、それらを統一的にやっていきたいと思っています。

目的意識、問題意識をもてない子が増えている中で、大学生になって就活のときに「自分のやりたいことがわか

らない」というふうにならないように、必要なことを湘南台で身につけさせた。「なぜ勉強するのか」と聞かれたときに、単に「いい大学に行くため」じゃなくて、「将来の良き市民を目指すため」という学びの意味がわかっていく、ということですね。

あとは、生徒に進学先や職業の知識、労働法の知識が少ないと感じていて、その部分の学習も入れていく必要があるのではないかと思います。

**鈴木** シチズンシップというと、ただ模擬投票とか模擬裁判をやってるんだというくらいをされることもありますが、広義のシチズンシップは、学校での日常の教育活動すべてをシチズンシップの視点で見ようとするものです。話し合いであったり、グループワークであったり、論文書きであったり、そうしたいろいろなことが、例えばチームで働くといった大人になるためのステップを上がっていることになら。何か大きなイベントによってではなく、毎日階段を一步步登っているイメージです。気がつくうちよつと高いところに行っている。1年間終わってみたい、こんなことができるようになったんだね、という生徒は増えていきますね。

**黒崎** 「キャリア教育は、例えばインターンシップという具体ではなくて、理念とか方向性でとらえるもの」と言われますが、それはシチズンシップもまったく同じなのかなと思います。